

神の国の奥義(26)

=人となられた神①=

■御言葉:ヨハネ7:1-24

- ① 仮庵の祭り(収穫祭;レビ 23:34-36;申命記 16:13):チシェリ(7の月)の15日、7日間継続(民数記 29:12-34)、8日目には盛大な集会(同 29:35-36)、喜びの祭り
- ② 兄弟たちの不信仰とイエスの態度:時が来ていないとしてガリラヤに留まるが、密かに祭りに上る;主の二面性:「密か」と「公け」→最後の7年(ダニエル 9:24-27)、再臨の様と関係するか(?)
- ③ イエスに対する評価(12節)
- ④ イエス公けに出現(14節):祭りの半ば(3日半)
- ⑤ 教えの源:イエスの教えは父の教え、自分勝手な教えは自分の栄光を求める(16-18節)
- ⑥ モーセ律法の欠点(19-23節;cf.ヘブル 8:6,7):ユダヤ宗教の教義の矛盾性
- ⑦ まことの割礼を受ける方はイエスのみ:霊による心の割礼が実体(ローマ 2:29)
- ⑧ 信仰(霊の契約)の割礼(肉の契約)に対する優位性(ローマ 4:12;ピリピ 3:3;ガラテヤ 5:6;6:15)
- ⑨ 正しい裁き(判断)の必要性(24節):イエスはモーセ律法のレビ系の大祭司に勝る、いのちの主メルキゼデク系の大祭司としてここにいるのではないかと証しされる。その I AM を認めることが正しい裁き

■暗証聖句

7:16わたしの教えは、自分の教えではなく、わたしをお遣わしになった方の教えである。

7:17 この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、わたしが勝手に話しているのか、分かるはずである。

7:18 自分勝手に話す者は、自分の栄光を求める。しかし、自分をお遣わしになった方の栄光を求める者は真実な人であり、その人には不義がない。

ガラテヤ5:6 キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

ガラテヤ6:15 割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。

ピリピ3:3 彼らではなく、わたしたちこそ真の割礼を受けた者です。わたしたちは神の霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。